進捗状況の概要（１ページ以内）
本事業では、1）高校-大学-大学院の壁を下げることで秀でた学生の修学をさらに高めると共に、2）個々の学生が修学カラーマップと StepGPA を活用して、個々の学力の特性を知り、自ら学んでいくシステムを作る、の 2 つを通して、ヒト-動物-環境の共生の未来を担う人材を育てる。またその実施状況の周知ならびに、実施体制、評価体制を整えた。 令和 2 年度は、以下を実施した。 １）高校-大学-大学院の修学をシームレスにし、秀でた学生の修学をさらに高める。 ⬧ 大学院科目の多くをオンライン、オンデマンド配信として、時空間に縛られない学部-大学院のシームレスな修学体制を整えた。また大学院講義のうち、8 単位を学部時代に履修できる可能性を見出し、次年度の規定改定の実施計画をたてた。 ⬧ プログラム関連科目のオンライン、オンデマンド配信を可能とする LMS を新たに導入した。また修学トラジェクトリーの機能を LMS に実装した。 ⬧ 学部横断的研究プロジェクトならびに幅広い学びを得るための研究プロジェクトを合計 16 課題、スタートさせた。学生の実践研究のための消耗品を購入し、現在、37 名の学生が実践研究を開始した。 ⬧ 学外実践研究の場として、宮城県金華山ならびに島根県美郷町での現地調査ならびに実践研究・実践実習の体制を整えた。また遠隔でも修学を可能とするように IoT を拡充した。 ⬧ 高校生が履修できる科目の候補を整理し、高校生の参加学年など体制の整備を行った。 ２）修学カラーマップと StepGPA を活用し、個々の学生が自ら学んでいくシステムの提供 ⬧ 学生自身の中での「出る杭」を可視化させるため、修学カラーマップと StepGPA を LMS に実装した。 ⬧ 教学 IR ワーキンググループを設置し、新規 LMS の選定、導入した。またその新規 LMS の機能の拡充として、学生の修学状態の解析を可能とする Learning Analytics を実装した。 ⬧ 2020 年度に 255 名（動物応用科学科 1 年、2 年次）の学生を対象にサイエンスリテラシーとコンピテンシーテストを実施した。 実施体制 ⬧ 学内教員による FD を実施した。コロナ禍、緊急事態宣言もあり、学外講師の招聘は次年度以降に延期した。 ⬧ 本プログラムの中核の一つ、実践研究の場を提供する「ヒトと動物の共生科学センター」の活動報告会に、外部評価委員を 3 名招聘した。1 名は学術（東京大学）、1 名は企業（動物関係）、1 名は自治体（神奈川県）から招聘し、有益な助言を頂いた。 ⬧ 教学 IR ワーキンググループを立ち上げ、本事業において学生の学びの可視化ならびに個別修学体制を整えるべく修学データの把握のための基盤を整理した。 マネージメント体制、事業の可視化、社会との接点 ⬧ プログラムの専用 WEB サイトを立ち上げた（https://www.azabuderukui.info/）。また事業内容の紹介と学生募集のためのプログラム冊子を印刷し、来校者と WEB からの希望者に対して配布した。